

# 航空機整備士・製造技術者養成連絡協議会

## 整備士養成ワーキンググループ 平成28年度とりまとめ

### 1. 平成28年度におけるワーキンググループ開催実績

第7回 平成29年2月27日(月)

- (議事) (1)平成27年度とりまとめに関するフォローアップ  
(2)平成28年度とりまとめ(案)について  
(3)その他

### 2. ワーキンググループ構成員

別紙のとおり

### 3. 平成28年度における取組み

#### (1)整備士の英語能力向上

平成27年度は、JAEA、ANA及びJALの3者においてタスクグループを設置し、関係者との意見交換を交え、テキスト類の整備を進めた。テキスト類の整備に当たっては、JAEAの既刊図書「これから学ぶ 航空機整備英語マニュアル」をベースに、関係者の意見やタスクグループでの検討結果を踏まえ、以下の項目を新たに作成し、「新これから学ぶ航空機整備英語マニュアル」を平成28年3月に発刊した。

平成28年度は、発刊された「新これから学ぶ航空機整備英語マニュアル」が、航空専門学校3校や航空会社2社、等の数多くの教育現場で幅広く採用され、教材としてその普及が急速に図られた。

一方で、この教材を採用している各教育現場より、この教材の普及を更に促進する為には、教材の利用法を掘り下げ、かつ航空用英語をより効率的に学ぶためのガイダンスを業界全体で共有する必要があるとの課題が提起された。

これを解決するものとして、検討の結果、今年度新たに「航空用英語学習講座」(1日コース)が企画され、平成29年2月3日と3月14日の2回開催された。こ

の「航空用英語学習講座」は、発刊した「新これから学ぶ航空機整備英語マニュアル」やインターネットの海外学習サイト、スマートフォンの英語学習アプリ等を参考にしながら今までの英語学習法の問題点を掘り下げ、これからの時代に適した最新の英語学習法を知り、実践することを目的にしている。

#### 【講座の内容】

##### 第一部

- ・ 英文マニュアル（AMM）の特徴、読むときの留意点
- ・ Simplified Englishについて
- ・ 英文整備記録の考え方

##### 第二部

- ・ Lesson learned - なぜListeningができないか
- ・ インターネット、スマートフォンを利用した学習法
- ・ 専門用語の習得法

注）本講座の内容の一部は、「航空技術」誌の連載特集“航空用英語学習のすすめ（理系の考える英語学習法）”として掲載されている。

本「航空用英語学習講座」は平成29年度以降も継続して開催される予定である。

#### (2) 整備管理従事者の養成

平成27年度は、JAEA、ANA及びJALの3者においてタスクグループを設置し、関係者の意見やタスクグループでの検討結果を踏まえ、テキスト類の整備を進めた。テキスト類の整備に当たっては、「航空法の基礎」及び「整備管理の基本知識」を新たに作成することとし、「整備管理従事者講習会【入門編】」として設定することとした。本講習会は、JAEAにおいて平成28年3月より開始した。

平成28年度は、JAEAにおいて、「整備管理従事者講習会（入門編）」を、継続開催することとし、平成28年11月14日～15日の2日間において実施した。なお、昨年度は、講習内容を「航空法」（1日）と「整備管理の基礎知識」（2日）の計3日コースとしていたが、今年度は参加者の意見の多かった受講利便性改善要望を反映し、整備管理の基礎知識」（2日）のみの2日コースとして実施した。

なお、「航空法」（1日）の講習内容については、同内容を別途「航空法規講習会」1日コースとして設定し、平成28年5月18日、9月9日、11月25日、平成29年3月1日の計4回実施した。

#### (3) 整備士の技量・技能の維持・伝承

平成27年度は、JAEA、ANA及びJALの3者においてタスクグループを設置し、関係者の意見やタスクグループでの検討結果を踏まえ、技量・技能の維持・伝承に係る発表会を開催することを決定した。第1回は平成28年3月に開催され、航空会社3者からのプレゼンテーションにより知見や手法等が共有された。

平成28年度は、この発表会を継続開催することとし、第2回「技量・技能の維持・伝承」発表会を平成29年3月10日に実施した。

【発表者と内容】

○日本トランスオーシャン航空株式会社

テーマ：「多様化する整備作業に柔軟に対応できる整備士養成について」

○株式会社AIR DO

テーマ：「整備士の人財育成と環境づくり」

～オンリーワンエアラインを目指して～

○株式会社スターフライヤー

テーマ：「スターフライヤーにおける整備士の技量・技能の維持・伝承」

○発表者全員によるパネル・ディスカッション

本「技量・技能の維持・伝承」発表会は平成29年度も開催する予定である。

(4) 中長期的な整備士の資格制度のあり方に関する検討

平成26年度に「更なる整備士の養成・供給の拡充に資するため、国際的・中長期的な視点から、整備士の資格制度のあり方について検討を行う必要がある。」と、とりまとめがなされた。

これを受け平成27年度の本ワーキンググループにおいて、欧米との整合性、我が国の整備士資格制度に関し議論を行ったが、制度の見直しに関する特段の意見等はなかった。このため、28年度においては、引き続き関係者からの要望等を継続的にモニタリングし、必要に応じて改めてワーキンググループで検討していくこととしていたが、28年度についても特段の要望等はなかった。

(5) 中長期的な整備士の養成のあり方に関する検討

平成27年度は、WGにおいて議論を行ったところ、航空整備士に関する指定航空従事者養成施設（以下「指定養成施設」という。）における教官及び技能審査員の確保が課題である旨の意見があった。また、この課題を解決する一つの方策として指定養成施設間での技能審査員のシェアについて意見があった。この課題については、既組織の「国土交通大臣指定航空従事者養成施設連絡協議会」（本ワーキンググループに名を連ねる教育機関から構成）において、当該課題について検討を行うこととした。

平成28年度は、これを受けて、「国土交通大臣指定航空従事者養成施設連絡協議会」において、当該課題について検討を行うこととなった。

平成28年6月6日に上記連絡協議会が開催され、JAEAが各校に対し実施したアンケート結果をもとに、指定養成施設での教官及び技能審査員の人数や年齢構成、運用上の課題がデータベースとして提供され、各校にてその人材確保に取り組んでいる状況が共有された。また、技能審査員のシェアについて議論を行い、各校でのやり方の違いにより容易にシェアを行うことは困難であるが、人材確保に関して可能な範囲

で各校の情報を相互に共有することの重要性が認識され、このような取組みを、引き続き上記連絡協議会にて継続することとした。

#### 4. 今後の取組み

##### (1) 整備士の英語能力向上

「新 これから学ぶ航空機整備英語マニュアル」については、学校教育機関や航空会社、整備・製造会社等での更なる普及を図っていく。また、関係者の意見等を踏まえ、必要に応じて見直しの検討を行うこととする。

「航空用英語学習講座」を今後も実施する。また、関係者の意見等を踏まえ、必要に応じて講習内容の見直しの検討を行うこととする。

##### (2) 整備管理従事者の養成

整備管理従事者講習会【入門編】を今後も実施する。関係者の意見等も踏まえ、各航空会社の要望に応えられるよう内容の充実を図っていく。更に、必要に応じて【専門編】のテキスト類の整備及び講習会の創設等について検討する。

##### (3) 整備士の技量・技能の維持・伝承

技量・技能の維持・伝承に係る発表会を今後も実施する。発表会で共有される知見や手法等は、JAEAにおいて蓄積していく。ある程度の知見や手法が蓄積された後、整備士の技量・技能の維持・伝承に関するPDCAサイクルの実践に取組むこととする。

##### (4) 中長期的な整備士の資格制度のあり方

引き続き、関係者からの要望や意見等をモニタリングしていくこととし、必要に応じて、改めて資格制度のあり方の検討をすることとする。

##### (5) 中長期的な整備士の養成のあり方

中期的な整備士の養成のあり方、人材確保に関する課題の解決については、各機関が個別で取り組んでいる内容を、機会をとらえて情報共有していく。全体で議論すべき事項等が出た場合は、必要に応じてWGを開催することとする。

#### 5. 平成29年度以降の進め方

##### (1) 整備士養成ワーキンググループについて

整備士養成ワーキンググループとしてこれまで実施してきた取組みについては、関係者のご尽力により自発的に取組まれており、今後もそれぞれが継続していく形となっている。一方、現状においてワーキンググループとして継続議論となっている課題はなく、これまでの取組みを引き続き継続し、これをフォローアップする状況となっている。このため、今後については適宜協議会への取組み報告に留めることとし、ワ

ーキンググループ構成員又は航空当局から新たに検討課題が提起される等、必要に応じてワーキンググループを開催することとする。

〈〈添付資料〉〉

- ・整備士養成ワーキンググループ平成28年度とりまとめ参考資料
- ・整備士養成ワーキンググループ構成員名簿